

## 第6学年算数科学習指導案

日 時 令和4年12月13日(火)

授業者 ステップ T. S.

ジャンプ H. D.

チャレンジ M. R.

### 1 単元名

比例と反比例 2つの量の変化や対応の特ちょうを調べよう

### 2 単元の目標

- (1) 比例の関数の意味や性質及び比例の関数を用いた問題解決の方法、反比例の関数について理解している。
- (2) 伴って変わる2つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いてそれらの関係を表現して、変化や対応の特徴を見いだすことができる。
- (3) 伴って変わる2つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いてそれらの関係を表現して、変化や対応の特徴を見いだすとともに、それらを日常生活に生かそうとしている。

### 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比例の関数の意味や性質を理解している。	①伴って変わる2つの数量を見いだして、それらの関係について着目して考えている。	①学習したことを基に、比例の関数に着目して考えたり表現したりしようとしている。
②比例の関数を用いた問題解決の方法について理解している。	②目的に応じて表や式、グラフを用いて比例の関係を表現して、変化や対応の特徴を見いだすことができる。	②比例の関数を用いて問題解決ができるよさに気づき、学習や日常生活に生かそうとしている。
③反比例の関数について理解している。		

### 4 単元について

本単元は、小学校学習指導要領 第3節 算数〔第6学年〕、2 内容のうち、

#### C 変化と関係

(I) 伴って変わる2つの数量に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 比例の関数の意味や性質を理解すること。

(イ) 比例の関数を用いた問題解決の方法について知ること。

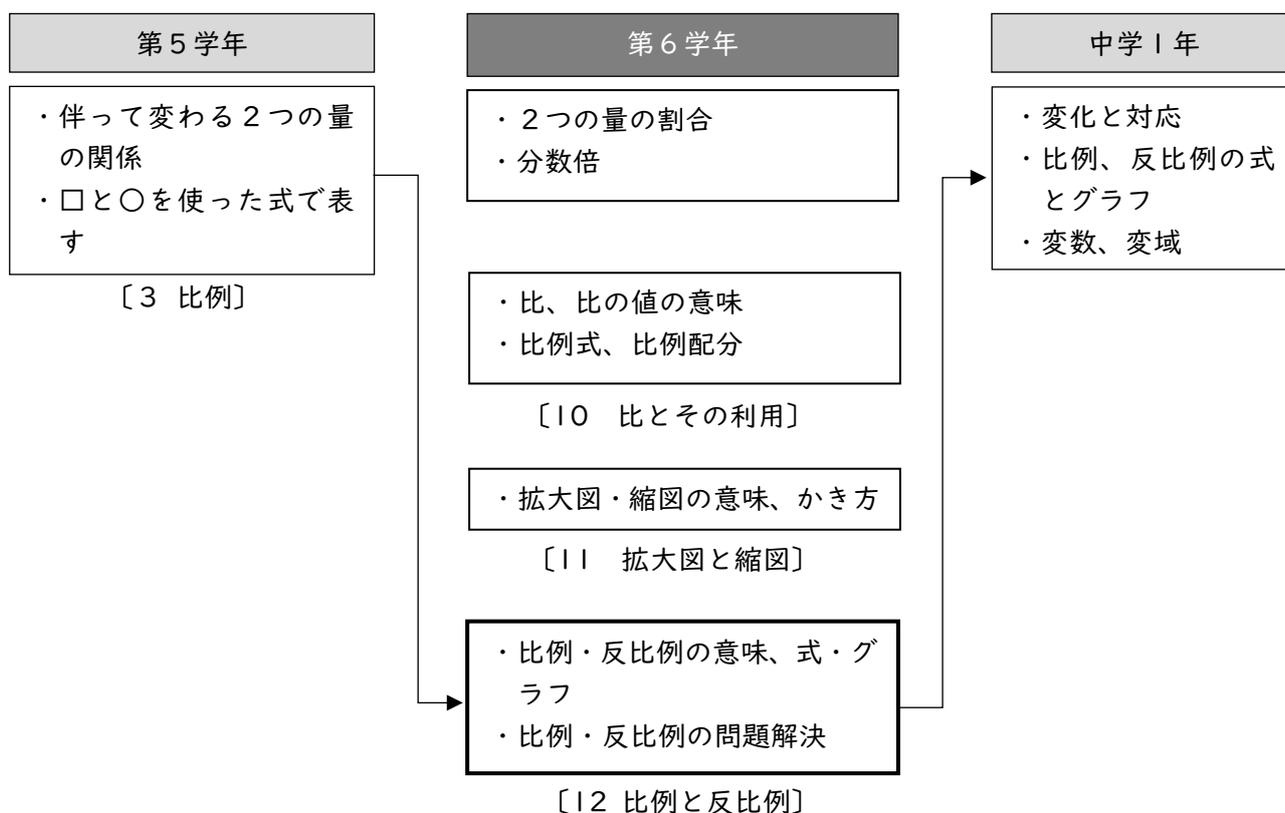
(ウ) 反比例の関数について知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 伴って変わる2つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いてそれらの関係を表現して、変化や対応の特徴を見いだすとともに、それらを日常生活に生かすこと。

を受けて、単元の目標を設定した。

伴って変わる2つの数量については、低学年から様々な場面で学習してきた。例えば、2年生の乗法九九の構成で、乗数と積の関係は比例関係にあるが、乗法のきまりということで取り扱った。数量関係としては、4年生において、「2つの変わる量」で、伴って変わる2つの数量を表した。さらに5年生では、一方が2倍、3倍、…になれば、もう一方も2倍、3倍、…になる関係を知る程度の簡単な比例について扱った。本単元では、これまでの既習事項を振り返り、数量の関係を比例の場合についてまとめていこうとするものである。比例・反比例の学習は、中学校1年生で負の数も含めて学習され、より一般化されたものとしてまとめられる。そして、その後、一次関数の学習が始まる。したがって本単元は、小学校としての比例関係のまとめであると同時に、中学校の関数に繋げる学習でもあるものとして、関数の見方・考え方を育みたい。



### 5 単元の指導計画 (13時間扱い)

時	小 単 元	目標	○学習内容	評価基準 (評価方法)
第1時	比 例	紙の枚数と重さの関係を、実物を用いて体験し、伴って変わる2つの数量の変わり方について理解する。 紙の枚数と重さや厚さとの関係を調べ、説明する。	○ 紙の枚数と重さとの間にどのような関係があるかを考える。 ○ 紙の枚数と厚さとの間にも、枚数と重さと同じような比例の関係が成り立つか考える。	【知】紙の枚数と重さには決まった関係(比例の関係)があることに気づき、それを利用して枚数の求め方を考えている。(行動観察、ノート記述)

第2時	比例	針金の長さや重さの2つの数量が伴って変わることを調べる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 針金の長さや重さの表を見て、2つの数量がどのように変わっているかを話し合う。</li> <li>○ 長さが2倍、3倍になっているとき、重さも2倍、3倍になることに気付く。</li> <li>○ 針金の長さが1.5倍になった場合や、1/2倍になった場合の、針金の重さの変わり方を調べる。</li> </ul>	【知】表から2つの数量の関係を捉え、比例の意味を理解している。(行動観察、ノート記述)
第3時		水の量と水の深さの関係を基に、比例のきまりについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 水槽に入れた水の量と水の深さが比例していることを知り、2量の関係を調べる。</li> <li>○ 水の量と水の深さの関係を、<math>x</math>と<math>y</math>を使った式に表す。</li> </ul>	【知】比例の関係を表す式について理解している。(行動観察、ノート記述)
第4時		比例の関係をを使った問題を解く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 針金の長さや重さの表から決まった数を求め、関係を式に表す。</li> </ul>	【態】問題から比例が活用できる場面を見つけて、能率のよい処理の仕方を求め、比例の関係を生かしていこうとしている。(行動観察、ノート記述)
第5時		正多角形の1辺の長さや周りの長さの関係を調べ、式に表す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 正三角形や正方形の1辺の長さや周りの長さが比例の関係であることに気づき、それらを比例の式に表す。</li> </ul>	【思】比例の関係を生かして問題を解決し、式に表している。(行動観察、ノート記述)
第6時		比例する2つの量の関係をグラフに表すと、縦の軸と横の軸が交わる点(原点)を通る直線になることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 水槽に入れた水の量と深さの関係を調べ、表に表す。</li> <li>○ <math>x</math>が0のときの<math>y</math>の値を調べる。</li> <li>○ 比例の関係を表すグラフの特徴を知る。</li> </ul>	【知】比例の関係を表すグラフが原点を通る直線として表されることを理解している。(グラフの読み取り)
第7時		グラフから数量の関係を読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ グラフから対応する数量や様々な情報を読み取る。</li> </ul>	【思】グラフについて変化や対応の特徴を見いだしている。(グラフの読み取り)

第8時 (本時)	比 例 の	日常生活や学習の場面において比例の関係にある数量を見いだして問題を解決する。	○ 日常生活や学習の場面において、比例の関係を生かして問題を解決する。	【思】日常生活や学習の比例が活用できる場面において、比例の関係を生かして問題を解決している。(行動観察・ノート記述)
第9時	性 質 の	比例の関係を問題解決に活用する。	○ コーラの量とコーラの中に含まれる砂糖の量との関係を調べる。	【思】比例の関係を生かして問題を解決している。(行動観察・ノート記述)
第10時	利 用	表やグラフを手掛かりにしながら問題を解決する。	○ おもりの重さとゴムの伸びる長さの関係を表した表やグラフから、2量の関係を式に表す。	【思】表やグラフから比例の関係にある数量を見いだして問題を解決している。(行動観察・ノート記述)
第11時		一方が増えると、もう一方が減る2つの数量について、その変わり方を調べる。	○ 面積が一定の長方形の、縦と横の長さに関係を調べる。 ○ 反比例の意味をまとめ、定義を知る。	【知】反比例の意味を理解している。(行動観察・ノート記述)
第12時	反 比 例	反比例の関係を表す式について理解する。	○ 面積が一定の長方形の横の長さをx、縦の長さをyとしたときに、xとyの対応する数のきまりを見付け、式に表す。	【思】反比例の関係を生かして問題を解決し、式に表している。(行動観察、ノート記述)
第13時		反比例の関係を表す式や表、グラフから反比例の関係を読み取る。	○ 反比例の関係にある問題を解く。	【思】反比例の関係を生かして問題を解決している。(行動観察・ノート記述)

6 研究主題について

【研究主題】

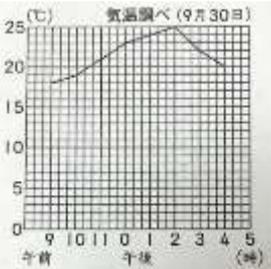
自分の考えを表現する力を育てる算数科の授業

<目指す児童像>

自ら情報を整理・分析し、適した方法でまとめ・表現ができる児童

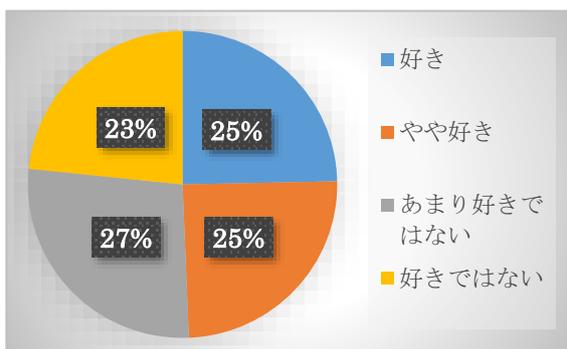
(1) 児童の実態

①レディネステストの結果(11月25日実施 第6学年 在籍86名 実施80名 未実施6名)

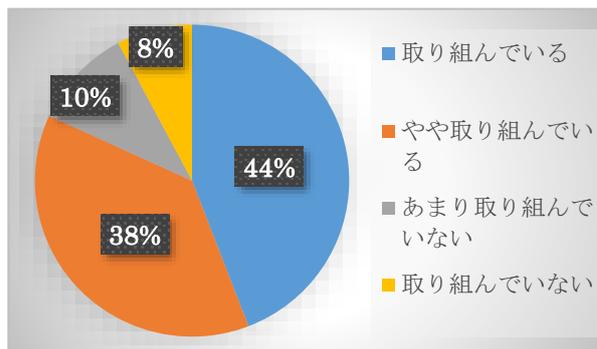
1	<p>① 午前9時の気温は何℃でしょうか。(正答 18℃)</p> <p>② 気温が25℃になったのは何時でしょうか。 (正答 午後2時)</p> 	<p>① 正答率95%(76人)</p> <p>② 正答率96%(77人) ⇒グラフの読み取りはほとんどの児童が確実にできている。</p>																		
	<p>③ 午前9時から午後0時までの間に、気温は何℃上がりましたか。(正答 5℃)</p>	<p>④ 正答率65%(52人) ⇒数値の変化を正しく読み取ることが苦手である。</p>																		
2	<p>下の表は、底辺が○cmの三角形の面積□cm<sup>2</sup>の関係を表しています。このとき、以下の問いに答えましょう。</p> <table border="1" data-bbox="220 1131 890 1265"> <tbody> <tr> <td>○cm</td> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> <td>4</td> <td>8</td> <td></td> <td></td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>□cm<sup>2</sup></td> <td>5</td> <td>10</td> <td>15</td> <td></td> <td>40</td> <td>50</td> <td>75</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>② ○と□の関係を式であらわしましょう。 (正答 <math>\bigcirc \times 10 \div 2 = \square</math> または <math>\bigcirc \times 5 = \square</math>)</p>	○cm	1	2		4	8			19	□cm <sup>2</sup>	5	10	15		40	50	75		<p>②正答率68%(54人) ⇒表から2つの数の関係性を整理することが苦手である。</p>
○cm	1	2		4	8			19												
□cm <sup>2</sup>	5	10	15		40	50	75													
3	<p>次の2つの量で、比例しているものを選んで○をつけましょう。</p> <p>①正方形の1辺の長さ□cmと、面積○cm<sup>2</sup>。</p> <p>②底辺12cmの三角形の高さ□cmと、面積○cm<sup>2</sup>。</p> <p>③自分の年れい□才と、2つ年上の兄○才。</p> <p>④まわりが、1.2mある車輪のまわる回転□回と、その進んだ道のり○m。</p> <p>⑤面積が12cm<sup>2</sup>の長方形のたての高さ□cmと、横の長さ○cm。</p>	<p>③正答率27%(22人) 誤答 5cm 50%(40人) ⇒三角形の面積の公式など、他の要素が入ると、正確な分析ができない。</p> <p>正答率20%(16名) ⇒2つの数の関係を理解し、比例に対する正しい認識が不十分である。</p>																		

②意識調査の結果(11月22日実施 第6学年 在籍86名 実施79名 未実施7名)

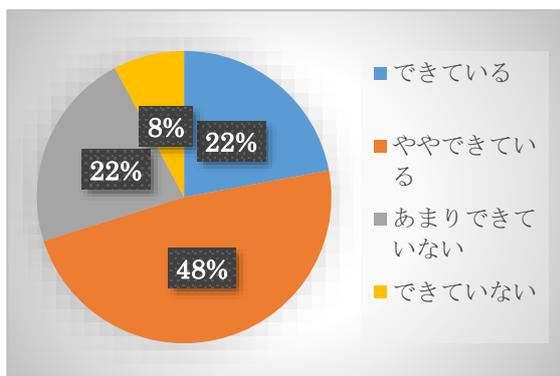
② 算数は好きですか



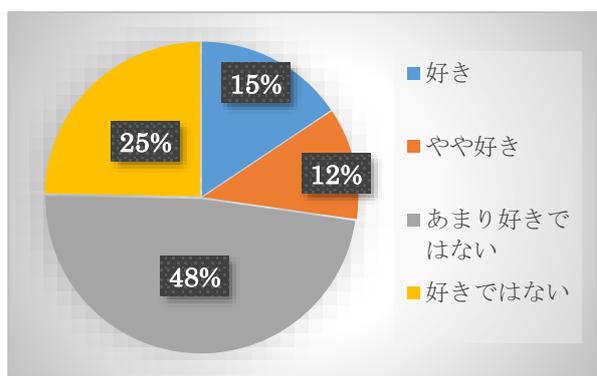
③ 算数の学習にすすんで取り組んでいますか



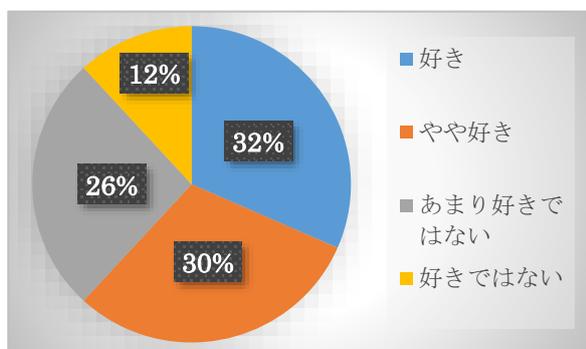
③算数の授業で自分の考えを書くことができますか。



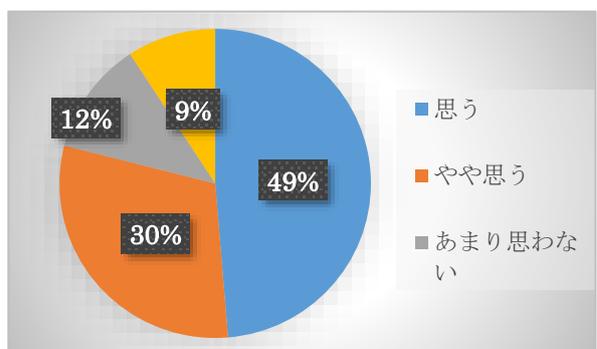
④算数の授業で自分の考えを伝えることは好きですか。



⑤算数の授業で友達の考えや説明を聞くことは好きですか。



⑥算数の授業で自分の考えを表現することは大切だと思いますか。



意識調査の結果から算数の学習に対し50%の児童が肯定的な回答をしている。一方で算数の学習にすすんで「取り組んでいる」「やや取り組んでいる」と回答した児童は全体の82%おり、算数科に対して**苦手意識がありながらも、意欲的に算数の学習に取り組んでいる児童が多いことが分かる**。そして自分の考えを書くことに肯定的な意見をもつ児童は70%いるのに対し、自分の意見を伝えることに肯定的な意見をもつ児童は27%に留まった。**自分の意見に自信がなく、周囲へ伝えることに苦手意識が強いことが分かる**。また自分の意見をうまく伝えることに否定的な意見が73%、友達の考えを聞いたりして学習することに否定的な意見が38%いるのに対し、79%の児童が、**算数の授業の中で自分の考えを表現することが大切だと思っている**。本単元では、単元の流れに沿って考えがもてるように、自分の考えを友達に表現する工夫を行っていく。

## (2) 自分の考えを表現する力を育てるための手だて

### ① 学習問題の工夫

児童にとって日常生活で起こり得る問題に取り組むことで、主体的に考えられるようにする。また、5年で学習した「伴って変わる二つの量」、10月に学習した「比、比とその利用」などの既習事項を想起しながら学習に臨めるような指導をする。習熟度別クラスの実態に応じて、授業の導入で前時までの振り返りを行い、既習事項を確認しながら学習を進められるようにする。

### ② 学習形態の工夫

問題を解決する方法を自分なりに考える時間を必ず設定している。また、学習の展開に応じて近くの席の友達2～4人で話し合う活動を意図的に設定する。意識調査で明らかになった、自分の考えを周囲に伝えることへの苦手意識を克服しながら、「対話的な学び」をねらった授業展開を行う。

### ③ 学習内容の習熟度に応じたクラス分け・学習問題

原則として教科書の内容を基に学習を進めていくが、習熟度別クラスの実態に応じて学習内容の難易度を調整し、問題を変更する。チャレンジクラスでは、関数単元を意識して、複数の種類のグラフを比較する活動を行う。ステップ・ジャンプクラスでも、複数の情報を提示して、児童が自ら必要な情報を選択して自分に合った方法で表現する活動を行う。習熟度別に応じた問題の内容、難易度、授業展開にすることで、児童の実態に合った題材を設定した。

### ④ 表現する方法の選択

習熟度別クラスの実態に応じて、式や表、グラフを用いて自分の考えを伝えられるように指導する。単元の前半で式や表、グラフの書き方を指導し、全ての児童が活用できるようにする。またICT機器を効果的に活用し、児童が自分の考えを表現するための支援をする。ICT機器は表やグラフをすぐに形にすることができたり、自分の考えを近くの友達やクラス全体に表現したりするツールとして活用できる。全児童に使うことを求めるものではないが、児童が自分の考えを様々な方法で表現する選択肢として活用したい。

7 本時（全 13 時間中の第 8 時）

ステップ T.S.

(1) 本時の目標

日常生活や学習の場面において比例の関係にある数量を見いだして問題を解決する。

(2) 授業の視点

- 児童が比例の関係を生かして問題を解決しようとするための手だては適切だったか。
- 児童が自分なりの方法で考えを表現することができる授業の展開だったか。

(3) 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 5分	○ 前時の既習事項を復習する。	・ 掲示物を基に学習を振り返る。	
展開 35分	<p>○ 本時のめあてと問題を知る。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">めあて 比例関係にあるものを見分けよう</p> <p>○ 2つの数量が比例をするか。比例しないのかを判断する。</p> <p>第1問 電車で遠足に出かけることになりました。赤坂駅から代々木公園駅まで千代田線に乗ります。移動した駅の数<math>X</math>、時間を<math>Y</math>としたとき、2つの数は比例しますか。</p> <p>第2問 賛育会病院から墨田区役所までバスで出生届を提出しに行きます。移動した駅の数<math>X</math>、時間を<math>Y</math>としたとき、2つの数は比例しますか。</p> <p>第3問 友達とレンタサイクルを借りて、押上からお台場までサイクリングすることになりました。利用時間を<math>X</math>、料金を<math>Y</math>としたとき、2つの数は比例しますか。</p> <p>第4問 雨が降っていたので、タクシーで学校から錦糸町駅まで行くことにしました。移動距離を<math>X</math>、料金を<math>Y</math>としたとき、2つの数は比例しますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループの友達と話し合いながら、根拠を示して問題に対する回答を考える。</li> <li>・ 資料として路線図を配布し、電車を利用する機会が少ない児童にも配慮する。</li> <li>・ 資料としてバスの路線図と時刻表を配布し、バスを利用する機会が少ない児童にも配慮する。</li> <li>・ 資料として自転車の写真を提示し、料金表を配布して、レンタサイクルを利用する機会が少ない児童にも配慮する。</li> <li>・ 資料としてタクシーの料金表と時刻表を配布し、タクシーを利用する機会が少ない児童にも配慮する。</li> </ul>	<p>目的地へ行くときに掛かる時間や料金の違いについて、比例の関係を生かして問題を解決している。</p> <p>【思】(行動観察・ノート記述)</p>

まとめ 5分	○ 学習のまとめをする。	
	<p>まとめ</p> <p>比例の関係にあるものを見分けるときは、式や表グラフにすると簡単に見分けることができる。</p> <p>比例関係の条件</p> <p>①式にすると、<math>Y = aX</math>の形になる。</p> <p>②表にすると、縦の関係はいつも同じ、横の関係は一方が2倍、3倍…になると、もう一方も2倍、3倍…になる。</p> <p>③グラフにすると、原点を通過して一直線になる。</p>	

(4) 板書計画

<p>12月13日(火) 比例と反比例</p> <p>めあて 比例関係にあるものを見分けよう</p> <p>第1問 電車で遠足に出かけることになりました。赤坂駅から代々木公園駅まで千代田線に乗ります。移動した駅の数<math>X</math>、時間を<math>Y</math>としたとき、2つの数は比例しますか？しませんか？ 〈解き方〉</p> <p>第2問 賛育会病院から墨田区役所までバスで出生届を提出しに行きます。移動した駅の数<math>X</math>、時間を<math>Y</math>としたとき、2つの数は比例しますか？しませんか？ 〈解き方〉</p>	<p>第3問 友達とレンタサイクルを借りて、押上からお台場までサイクリングすることになりました。利用時間を<math>X</math>、料金を<math>Y</math>としたとき、2つの数は比例しますか？しませんか？ 〈解き方〉</p> <p>第4問 雨が降っていたので、タクシーで学校から錦糸町駅まで行くことにしました。移動距離を<math>X</math>、料金を<math>Y</math>としたとき、2つの数は比例しますか？しませんか？ 〈解き方〉</p>	<p>まとめ</p> <p>比例の関係にあるものを見分けるときは、式や表グラフにすると簡単に見分けることがで</p> <p>比例関係の条件</p> <p>①式にすると、<math>Y = aX</math>の形になる。</p> <p>②表にすると、縦の関係はいつも同じ、横の関係は一方が2倍、3倍…になると、もう一方も2倍、3倍…になる。</p> <p>③グラフにすると、原点を通過して一直線になる。</p>
--	---	--

(1) 本時の目標

観覧車に乗るまでの時間やゴンドラの数について、比例の関係を生かして問題を解決する。

(2) 授業の視点

- 児童が比例の関係を生かして問題を解決しようとするための手だては適切だったか。
- 児童が自分なりの方法で考えを表現することができる授業の展開だったか。

(3) 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 既習内容の復習をする。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 比例の関係やそれが成り立つときの式やグラフについて振り返る。</li> </ul> </li> <li>○ 本時の学習を確認する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観覧車に乗るまでの待ち時間について考えることを知る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既習事項を用いて考えられるようにする。</li> </ul>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     めあて 必要な情報を使って、待ち時間を求める方法を考えよう                 </div>			
展開 38分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 必要な情報について考える。                             <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                                 並んでいる人数：35人                                  並んでいる順番：12番                                  観覧車の直径：62m                                  ゴンドラの数：16台                                  1周にかかる時間：5分20秒                             </div> </li> <li>○ 必要な情報を使って、観覧車に乗るまでの待ち時間を求める。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人で考える。</li> <li>・ ペアやグループで考える。</li> </ul> </li> <li>○ 全体で考えを共有する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ノートやタブレット端末にまとめた自分の考えを発表する。</li> </ul> </li> <li>○ 発展問題に取り組む。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最後尾が120組のときの待ち時間を求める。</li> <li>・ 1時間待ちのときに待っている組の数を求める。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援の必要な児童には、必要な情報と不要な情報を整理するように助言する。</li> <li>・ 1台のゴンドラが来る時間を比例とみなして考えられるようにする。</li> <li>・ 式やグラフ、表を用いて考えている児童がいれば指名する。</li> </ul>	観覧車に乗るまでの時間やゴンドラの数について、比例の関係を生かして問題を解決している。【思】 (行動観察・ノート記述)

ま と め 2 分	<p>○ 本時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>必要な情報を見極めた上で、比例の関係を生かして問題を解決できたか振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>比例の関係をを用いると待ち時間を求めやすくなることに気付けるようにする。</li> </ul>	
-----------------------	--	--	--

(4) 板書計画

12/13 比例と反比例⑧

問題

観覧車に乗るまでの待ち時間を求めよう

めあて

必要な情報を使って、  
待ち時間を求める方法を考えよう。

情報

並んでいる人数：35人  
 並んでいる順番：12番  
 観覧車の直径：62m  
 ゴンドラの数：16台  
 1周にかかる時間：5分20秒

児童の考え

発展問題

比例の関係を生かして問題を解決することができる。

チャレンジ M.R.

(1) 本時の目標

比例の性質を活用してグラフを読み取り、問題を解決することができる。

(2) 授業の視点

○ 携帯会社の比較を課題として提示したことは、児童が主体的に学習に取り組む手だてとして有効であったか。

○ 児童が自分なりの方法で考えを表現することができる授業の展開だったか。

(3) 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時までの学習を振り返る。</li> <li>○ 本時の課題を知る。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     A社、B社のどちらのスマホを買うか悩んでいる人がいます。                      あなたなら、どちらの会社のスマホをおすすめしますか？                 </div> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 比例のグラフは直線になること、「0」を必ず通ることを確認する。</li> <li>・ A社、B社の2枚のチラシ(情報)を用意し、2社の違いはプランにあることに気付かせる。</li> </ul>	
展開 25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2社の違いは何かを考える。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通話料金が違う。</li> <li>・ A社は通話時間が長くなると、料金が高くなる。</li> <li>・ B社は60分までは値段が一緒だが、60分を超えると値段が上がる。</li> </ul> </li> <li>○ 2社を分かりやすく比較するためにどうしたらいいかを考える。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グラフで表すとよい。</li> <li>・ 表に整理するとよい。</li> </ul> </li> <li>○ めあてを確認する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     グラフや表から、2社の通話料金の違いを調べ、どちらがお得かを説明しよう                 </div> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 簡単に料金が比較できないことに気付かせる。</li> <li>・ 学習の見通しをもたせる。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自力解決をする。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A社は比例のグラフになる。</li> <li>・ B社は横一直線になるが、途中から比例のようなグラフになっている。</li> </ul> </li> <li>○ グループやペアで課題解決の方法を共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 縦軸が料金、横軸が通話時間になるグラフの用紙を必要な児童には配布する。</li> <li>・ 作成した表やグラフを根拠に説明させる。</li> </ul>	比例の関係を生かしてグラフを読み取り、問題を解決している。 【思】(行動観察・ノート記述)

ま と め 10 分	○ A社、B社のグラフを作成し、全体で協議する。 ・ ほとんど通話をしない人はA社がお得。 ・ 月に85分以上通話をする人はA社がお得。 ・ 通話時間が25分以上、85分未満の人はB社がお得。	・ 児童の発言をもとに、情報を整理し、どちらのスマホがお得なのかを考えさせる。 ・ 具体的な数値を用いるようにさせる。	
	○ 本時の学習をまとめる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           グラフや表を使えば、2つの会社の違いが分かりやすくなる。         </div>	
	○ 適用問題に取り組む。	・ もう一社であるC社を提示し、通話時間が60分の人と、90分の人、どこの会社がお得かを考えさせる。	

A社・・・通話料金は通話時間に伴って必要になる。(1分で100円)

B社・・・定額通話プラン。ただし、一定の時間を超えると通話時間に応じて料金が加算される。  
(60分まで一律3500円、1分超えるごとに200円増加)

C社・・・特別回線プラン。基本料金がかかるが、通話料が安い。  
(基本料金が2000円かかり、1分で50円増加)

(4) 板書計画

<p><b>課題</b></p> <p>スマホの契約をするなら、A社とB社のどちらがお得でしょうか</p> <p><b>見通し</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通話時間と通話料金をグラフ、表にする</li> <li>・A社は比例している</li> <li>・B社は比例ではない途中から比例?のようなグラフになる</li> </ul>	<p><b>めあて</b></p> <p>グラフからA社とB社の通話料金の違いを調べ、どちらがお得か調べよう</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px; margin: 10px auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <p>グラフ</p> </div>	<p>〈グラフからわかること〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんど通話をしない人はA社がお得。</li> <li>・月に85分以上通話をする人はA社がお得。</li> <li>・通話時間が25分以上、85分未満の人はB社がお得。</li> </ul> <p><b>問題</b></p> <p>C社も含めて、60分通話する人 90分通話する人 にはどの会社がお得?</p>
--	--	--